

## 各関係団体等ヒアリング調査結果報告書

### 1 各関係団体等へのヒアリング調査

次期「大垣市障がい者総合支援プラン」の策定に関する基礎資料とするため、障がい者関係団体、障がい者関係事業所に対し、障がい福祉施策に関する課題や意見について、ヒアリングシートによる調査を実施しました。

ヒアリング調査を実施した団体・事業所は次のとおりです。

1. 障がい者関係団体（15 団体・順不同）	
岐阜県身体障害者福祉協会大垣支部	岐阜県腎臓病協議会西濃ブロック大垣支部
大垣市手をつなぐ親の会	岐阜県自閉症協会西濃ブロック大垣支部
大垣市肢体不自由児・者 障害児・者父母の会	パン工房ドリーム保護者会
大垣視覚障害者福祉協会	社会福祉法人ともえ会
大垣聴覚障害者福祉協会	重症心身障害児・者親の会
ひまわり学園親の会	大垣特別支援学校大垣地区 P T A
かわなみ作業所父母の会	西濃地域精神障害者家族会 いぶき会
大垣市柿の木荘保護者会	
2. 障がい者関係事業所（20 事業所・順不同）	
新生メディカル大垣営業所	スケッチハウス
ニチイケアセンターうるう	大垣市柿の木荘
大東ホームヘルプサービス	カラーズ
ハートサービス	工房さんぼみち
大垣市社会福祉協議会ホームヘルパー室	オアシスホーム
チェントロマンマ	グループホームほたるの里大垣
マミーハウス	相談支援事業所かがやき
大垣市立かわなみ作業所	大垣市立ひまわり学園
ぐっどらんど	放課後等デイサービスラディアントステップ
大垣市くすのき苑	一般社団法人放課後等デイサービス Oasis

## 2 ヒアリング調査結果

障がい者関係団体及び障がい者関係事業所へのヒアリング調査結果のうち、主なものを掲載します（内容が変わらない程度に一部要約しています）。

### （１）障害福祉サービス事業所が提供するサービスについて

#### 1. 障がい者関係団体

##### ①不足していると感じるサービス

###### ＜主なもの＞

短期入所、生活介護、療養介護、施設入所、日中一時支援、移動支援、相談支援

###### ＜その他のご意見＞

- ・医療・療育・教育・福祉・労働・行政が連携し、一体となって障がい者の一生を切れ目なく支援するサービス。
- ・事業所のガイドヘルパーの人手が足りない。
- ・専門的知識を持つ有資格者職員の不足により、障がい者が望むサポート機関はキャンセル待ち状態で簡単に入所できない現状がある。
- ・サービス不足というよりも支援員、世話人の不足（特に男性支援員）
- ・学童までのデイサービスは充実してきているが、成人のデイサービスが不十分と思われる。
- ・人手不足が、きめ細かいサービスの不足につながっている。
- ・重症心身障がい児者が利用可能な短期入所や生活介護施設が足りない。

##### ②今後、拡大してほしいサービス

###### ＜主なもの＞

短期入所、生活介護、共同生活援助（グループホーム）、日中一時支援、福祉有償運送、自立生活援助

###### ＜その他のご意見＞

- ・1日あたりの1回利用時に、時間と距離の延長をしてほしい。
- ・専門的な人員の確保、サポート機関の拡充および周知活動の活性化。
- ・常時、支援できる24時間体制と障がい者支援の専門家による支援。
- ・親なきあとの制度、支援サービスの拡大と充実。
- ・重度自閉症者が高齢化しており、対応した支援をのぞむ。
- ・福祉有償運送、放課後デイを日曜日、祝日も利用可能にしてほしい。
- ・ストレッチャーが入るサイズの福祉有償運送車両があるとよい。
- ・親が入院等で世話ができないときに預かってもらえるサービス。
- ・サービス利用者へのカウンセリングを充実してほしい。

### ③今後、新規で提供してほしいサービス

#### ＜主なもの＞

短期入所、共同生活援助（グループホーム）、移動支援、相談支援

#### ＜その他のご意見＞

- ・一人ひとりの障がい者の心身の状況が一目で分かり、特に一人暮らしや高齢者の場合、気にかかる点がある場合、すぐに対応できるサービス。
- ・発達の遅れ、障がいのある子の自立につながる長時間かつ完全母子分離の療育サービス。
- ・事業所内で行えるリハビリ的なサービスや自立に向けた訓練の場。
- ・重症心身障がい児者が利用可能なコミュニティバスの公共交通機関。
- ・病院のデイケアと就労継続支援 B 型事業所の中間福祉サービス

## 2. 障がい者関係事業所

### ①不足していると感じるサービス

- ・重度訪問介護
- ・共同生活援助（グループホーム）
- ・同行援護
- ・各種サービスの相談先
- ・短期入所
- ・日中一時支援
- ・特定相談支援事業所（相談支援専門員）

### ②今後、拡大したい（する予定の）サービス

- ・短期入所
- ・共同生活援助（グループホーム）
- ・相談支援事業所（特定及び障がい児）
- ・放課後等デイサービス

### ③今後、新規参入したい（する予定の）サービス

- ・身体介護
- ・特定相談支援事業所
- ・生活支援
- ・相談窓口の充実
- ・短期入所
- ・就労支援
- ・共同生活援助（グループホーム）
- ・高齢者の入所施設

### ④今後、縮小したい（する予定の）サービス

- ・重度訪問介護
- ・同行援護

## (2) 「大垣市障がい者総合支援プラン」の施策展開について

15 項目の施策方向のうち、市として優先的に取り組んでほしい施策について、取りまとめました。

※15 項目の施策方向の概要については、現「大垣市障がい者総合支援プラン（令和3年度～令和5年度）」冊子中、P34～P57 を参照。

### 1. 障がい者関係団体

施策方向名称	計	うち障がい者関係団体	
		うち障がい者関係団体	うち障がい者関係事業所
①きめ細やかな相談支援体制の充実	14 票	7 票	7 票
②地域での自立に向けた生活支援サービスの充実	12 票	7 票	5 票
③保健・医療・福祉の連携	16 票	7 票	9 票
④日常の暮らしの場としての多様な住まいの確保	7 票	4 票	3 票
⑤ニーズに応じた障がい児支援と教育の充実	4 票	3 票	1 票
⑥多様な雇用環境の整備と就労支援	8 票	2 票	6 票
⑦あらゆる社会参加活動への支援	3 票	—	3 票
⑧生涯楽しめるスポーツや文化芸術活動の推進	2 票	1 票	1 票
⑨合理的配慮と情報提供の充実	3 票	1 票	2 票
⑩バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり	4 票	2 票	2 票
⑪障がい者を理由とする差別の解消と権利擁護の推進	1 票	—	1 票
⑫相互理解と交流を通じた心のバリアフリーの推進	2 票	—	2 票
⑬災害等の緊急時における安全・安心の確立	12 票	5 票	7 票
⑭共に支え合う地域共生社会の推進	4 票	2 票	2 票
⑮福祉人材・ボランティアの養成と確保	13 票	4 票	9 票

### （３）日常生活や社会生活で困っていることについて

#### １．障がい者関係団体

- ・生活に必要なサービス（福祉施策）や福祉制度についての相談窓口ではなく、日常生活・社会生活での悩みや不安を聞いてもらえる相談窓口がない。
- ・軽度の障がい者も含めて社会生活上のルールが理解できていなくて戸惑うことがあるため、トラブルになったりすることがある。また、いろいろな人と接する機会が少ないため、犯罪や詐欺に巻き込まれることも多い。出来るだけそういうことを少なくするために、いろいろな行事に参加したり、勉強したりする機会も少ない。
- ・視覚障がい者の単独歩行における安全確保（点字ブロック及び音響信号の設置）。
- ・情報の見える化ができる公施設が少ない。
- ・医療的ケア児が保育園、幼稚園に就園できない。また、その親が必然的に就労できず金銭的余裕がなくとも共働きできず社会参加する選択肢がない。
- ・療育や療育機関が周知されておらず、知らない方との温度差に困る。
- ・「発達障がい」というワードだけが目立ち、偏見があるように感じる。
- ・境界域（ボーダー）の子は、障がいではないが、サポートは必要という不安定な立ち位置も誤解されやすく、親としてはグレーゾーンの存在ももっと知ってほしいという考えがある。
- ・人手不足で介助が異性になる事もあるため、なるべくなら同性介助が望ましい。
- ・障がい者は、基本的なマスクの着用が難しい、相手との距離をとることが難しい等、困難が多々ある。
- ・透析通院や日常生活でのインフラ整備の拡大・充実を望む。
- ・買い物や病院に行くために、コミュニティバスを利用したい。
- ・コロナ禍によって休日の楽しみができない。
- ・親なきあとの日常生活や社会生活、経済的な面がどうなるか心配。
- ・まだまだ歩道の段差が多い。
- ・トイレ、入浴、食事の介助など生活全般。
- ・市民病院の小児科に小児神経の専門医が常駐していないのでとても困っている。
- ・就労施設等の選択肢が少ない。自立で通うことができない、送迎もない。共働きの親の生活と時間が合わない。
- ・周りの人の目が気になるため、病院受診や外出がしにくい。
- ・何にも悪いことはしていなくても、体が大きくなってくると、泣いたり怒ったり目立つことをしたときの周りの目がつらい。
- ・漢字の読み書きが難しいため、店のメニューや看板などにふりがながあるとわかりやすい。
- ・障がい者の利便性を高めるスマートフォンのアプリが開発されているので、知る機会があるとよい。
- ・支援者も高齢化しており、日常生活のすべてが大変になってきている。

## 2. 障がい者関係事業所

- ・災害時の対応に不安。
- ・ヘルパー不足により、サービス提供がしっかりとされていない。
- ・社会参加の機会が少ない。
- ・適切な支援がないと日常生活が送れない。
- ・移動手段が限定される。
- ・親の急な用事等での預け先が少ないこと（泊まり含む）。
- ・障がい特性をまわりの人に理解してもらえず、誤解されやすい。
- ・問題、悩みごと等の適切な相談先が分からない。
- ・災害時、緊急時の避難先。
- ・身辺自立が難しく、人の助けを借りる必要がある。
- ・コロナ禍でなかなか外へ出れない。サービスも受けづらい。
- ・自由に買い物したり、出かけることができない（周りの理解がない）。
- ・自分たちの知らないことが多く、何に困っているのか自分でもわからないこと。
- ・親の高齢に伴い、今までしてもらえていた支援がうまくいかなくなってきた。
- ・年金だけではグループホームで生活しながら、生活に必要なお金が賄えない。
- ・グレーゾーンの子の行き場（働き場）や遊ぶ場所が少ない。大学生になると、サービスが途端になくなる。
- ・特に知的や発達障がいのある方では、こだわりが強く、他の人の物を触ってしまうことがあったり、マスクを着けていない人に注意をしてしまうことがある。
- ・発達障がいのある人は特にその場の状況に合わせた行動をとることが苦手なことが多く、相手との距離感や声の大きさなど「ちょうどよい加減」の調整が困難。
- ・行政からの書類内容が難しく対応できない。
- ・地域を巡回するコミュニティバスなど、気軽に使える交通手段がない。
- ・働ける場所が不足している。もっと選択できるとよい。
- ・車いす利用の方で、出来る限り自宅で生活を続けたいと思っているが、入浴の際、親が抱きかかえて入れている状況であり、親が高齢で難しくなったときにどうしたらよいか不安。
- ・ヘルパーが不足しており、デイサービスでの入浴が受け入れ可能な施設がない。
- ・困っていることがあっても、どこに相談に行けばよいのかわからない。
- ・障がいのある子の不登校や依存の解決には、事業所では限界がある。
- ・学校によって連携が難しく、子どもの様子を聞くことができないことがある。
- ・コミュニケーションがうまく取れないことや、語彙力の難しさ、状況をうまく説明できない。
- ・困った時などにすぐに対応してくれる環境が整っていないことがある。
- ・親の判断で本人に適した学校選択をされていない家庭も多く精神的に不安定になりやすい。不登校傾向の子どももいる。



#### (4) 障害福祉サービスを利用する際に困っていることについて

##### 1. 障がい者関係団体

- ・障害支援区分の認定は、認定調査員による調査、主治医の意見書による判定と、認定調査員の特記事項を参考にして認定されるが、当事者の回答だけでなく、第三者の意見も聞いて調査したほうがよい。
- ・障害福祉サービスにはどのようなものがあるか分からないため相談したいが、どこに相談してよいのか分からない。学校卒業後はどこに相談してよいのか。
- ・自分自身である場合の手続き等が分からなかったり、困難だったりして諦めてしまうことがある。
- ・入所施設において、強度行動障がいの方の利用を断られるケースが多い。
- ・書類の代読や代筆の配慮。
- ・相談事業所において、面談したのに書類を何一つ準備せず、他の事業所に丸投げするところがあって困ったことがあった。
- ・今利用しているサービス以外のものを探すとき、親がかなりの労力を費やさないと見つからない。
- ・医療・療育・リハビリなど、大垣市または近隣市町で一括して相談できる場所がほしい。
- ・公営施設は他事業所を紹介できない、しにくいという雰囲気はなくしてほしい。
- ・短期入所や日中一時支援の利用において、障がいが重いと利用できない、前月までに予約が必要で急遽利用したい時に使えなくて困ることがある。
- ・学童が利用するデイサービスは充実してきていると思うが、成人してからのデイサービス（短期入所、日中一時支援）は不足している。
- ・移動支援サービスについて、家までの送迎等をしてもらえると利用したい。
- ・短期入所の利用について、面接、聞き取り等をすると思うが、時間との兼ね合いがあり、現地まで行くことが難しいので、家の方まで来てもらえたら利用したいと思う。
- ・生活介護の利用者は、訪問入浴が利用できないという基準を見直してほしい。
- ・リフォーム補助金を使用してしまうと、発達や生活形態が変化した場合に再リフォームで補助金が利用できない。
- ・重症心身障がい者のグループホームがない。日中一時支援の時間数の拡大。
- ・グループホームの利用料金が高額なため、補助がないと利用できない。
- ・重症心身障がい者が乗車不可能な車両の事業所が多く、移動支援のサービス契約が困難。
- ・話すことが苦手な子の場合、事業所との相性が大丈夫か、何か嫌なことはない等、心配に思うことが多い。
- ・放課後等デイサービスで、日曜日・祝日も利用できるところが増えてほしい。
- ・親なきあとの子どもの送迎面が不安。自宅から近い通所施設が少なかったり、送迎サービスがないところも多い。

## 2. 障がい者関係事業所

- ・介護保険に比べて、障害福祉サービスが少ない。
- ・事業所が少ない。
- ・利用申請からサービス利用までに時間がかかる。
- ・市役所まで手続きに出向くことが大変なので、自宅訪問があるとよい。
- ・利用者が高齢化し、ますますサービスについての理解が難しい。利用の仕方が分からない。
- ・手続き方法がわからない。
- ・サービスの種類が把握できない、何が必要なサービスなのかがわからない。
- ・スロープを多くしてほしい。
- ・療育の場が少ないので、増やしてほしい。
- ・相談支援員を増やしてほしい。
- ・サービスの受給量を増やしたいと希望されている方に、受給量を増やしてほしい。
- ・ヘルパーの利用時間が限られる。
- ・複数のサービスを利用する際、契約が大変。
- ・就労経験のない精神障がい者が、病院と連携し社会復帰を目指す際、就労アセスメントが課されるが果たして有効な手段なのであろうか。社会復帰を目指す上での足枷になっていないか。
- ・利用者として、こういうことに困っている、こういった配慮をしてほしいという意見が、支援をお願いしている立場という認識があるため言いづらい。
- ・手続きが煩雑。
- ・相談支援事業所が不足している。
- ・放課後等デイサービスは、小学校1年生から高等部まで利用できるのに、年齢差があり支援の統一は難しいことがあるため、個々に応じて療育していく必要がある。
- ・本人のニーズより、親の都合で無理やり行かされていることもある。
- ・保護者が子どもに対して期待が強く、今必要な支援を伝えても、共通理解をもとに支援の統一が定まらなく自分の気持ちを表現できない。



## （５）障がい児への支援について

### 1. 障がい者関係団体

- ・就学、放課後デイサービス等、障がい児への支援策は拡充されているが、重度障がい児や医療的ケアが必要な児童への支援は十分ではないと思う。
- ・出来るだけ早期に障がいの種類や特徴を見極め、将来を見据えた療育・教育が受けられるよう、どこの地域にも PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）を含めた療育・教育を行う専門家が常駐する施設が必要。
- ・インクルーシブ教育を推進し、障がいのある子、医療的ケアの必要な子、発達のゆっくりな子など、いろいろな状況の子ども達が同じ空間にいて相互理解、他者への思いやりを自然に学べるのではないかな。
- ・早期療育に対する積極的支援、情報提供と周知。
- ・行政・教育・医療機関の連携の強化。
- ・全員に同じ支援ではなく、一人ひとりにあった支援をしてほしい。
- ・障がいのある子もいない子も地域の学校と一緒に通うことにより、理解が深まると思う。
- ・一般社会生活への積極参入できる施策推進をしてほしい。
- ・自分の子どもが他の子と少し違うと感じても、障がいがあるからだと思いが付く親は少ないので、障がいがあることが早く発見できるようなシステムがあるとよいと思う。
- ・一人になった時に、どう支援をしてもらえるのか。衣食住での必要な物事はこういう形でしてもらえるのか。
- ・重症心身障がい児がショートステイを利用できるようにしてほしい。
- ・放課後デイサービス事業所を充実してほしい。
- ・日曜日、祝日も預かり支援を行ってほしい。
- ・家族への支援が足りない。レスパイトと言うと親が休んでいるイメージを持たれるが、日々の支援で限界にきており、そうではないことを理解してほしい。
- ・同居家族がいても、支援ができるわけではない。
- ・相談する場が少ない。
- ・障がいの専門的な病院、訓練施設が少ない。
- ・医療的ケアが必要な児童の受け入れ体制づくりのため、看護師等の人材を確保してほしい。

## 2. 障がい者関係事業所

- ・臨機応変に必要としていることに気付いて行動する。
- ・親なきあとの支援について、先を考えることを行政から伝えてほしい。
- ・障がいのある子本人だけでなく、その親への支援も必要。
- ・早期からの支援。
- ・個別性を尊重しつつ、集団社会への適応を考えていく。
- ・障がいに対する正しい知識の理解。
- ・保護者とコミュニケーションをとる。
- ・冷静な気持ちで優しく接する。
- ・障がいのある子の保護者のフォローや支援の充実。
- ・小学生の利用に関してはネグレクトにつながる可能性もあり、利用について慎重にならないといけないが、中高生の親の高齢化に応じた短期入所の使い方が必要とを感じる。
- ・出来ること、得意なこと、出来たことを褒める。
- ・親への支援。家庭状況の把握。
- ・障がいの有無に関わらず、子育て全般について両親が学ぶ機会（ペアレントトレーニング的なもの）が必要ではないかと思う。
- ・コロナ禍でサロンやイベントが減り、子どもの育て方や関わり方が分からない親が多いのではないか。
- ・各利用事業所と相談支援事業所、学校、家庭との連携。
- ・発達に遅れがあったり、特性があっても気づかないことがあるため、交流できるような機会が必要であると思う。
- ・発達過程や特性、適応行動の状況を理解した上でコミュニケーション力をつけていくことや個別支援計画に沿って支援していくこと。
- ・親のニーズが強く本人のニーズは通らないことが多い。
- ・事業所、学校、家庭での良いこと、悪いことの判断の統一性。場によって態度や行動を使い分けることがないように支援を統一すること。

## (6) 社会参加やスポーツ・文化芸術活動についての課題、提案、意見等

### 1. 障がい者関係団体

- ・社会参加やスポーツ・文化芸術活動について、連絡をしたくても対象者が分からないので、特定の人だけにしか伝えられない。
- ・参加する機会は、健常者に比べるとまだまだ少ない。
- ・社会参加やスポーツ・文化芸術活動に参加して一般市民に見てもらうことは、障がい者への理解を促すうえでも大切。
- ・プールなどの余暇活動の場が少ない。
- ・市内の公共施設等で、音声ガイドされる展示物や、手で触れられるレプリカが設置されるとよい。
- ・小学校低学年から支援学級、支援学校との頻繁な交流、障がいについて学べる郊外授業や講演会など、教育の中で福祉について学べる機会が多いと、偏見や差別について考え奉仕の気持ちを養えるのではないかな。
- ・インクルーシブ教育も含め、行政・学校・個人が地域ぐるみで福祉や伝統芸能に触れ合える環境作りをしてはどうか。
- ・スポーツに参加する事がとても少なく、ボランティアが付き添って教えてもらえるようなイベント等があればよいと思う。
- ・多動な子どもたちには、月1回程度、休日に体を動かしたり、野外活動ができる場があるとよいと思う。
- ・障がい者を対象とした企画（映画館の貸切の障がい者専用日 など）。
- ・参加しやすい環境を作ってもらえるとうれしい、いろいろな経験をさせたいと思う一方、迷惑がかかるのではないかとためらってしまうことがある。
- ・スポーツ・文化芸術活動を、障害福祉サービス事業所が企画・運営できるよう、何かしら助成があるとよいと思う。
- ・小さいころから参加できる場所があるとよい。絵画や音楽などの芸術面、スポーツなど、プロの専門家であれば、その子の才能を見つけて引き出すことができる。
- ・サービス事業所の日中活動の中で、体を動かすヨガ体操や音楽療法などを取り入れるとよいので、専門知識のある講師の情報などを提供してもらえると、利用者も参加しやすく良いと思う。

## 2. 障がい者関係事業所

- ・1人でも気軽に参加できるのであれば、参加していくことはよいことだと思う。
- ・ボランティアの育成が必要。
- ・活動の中で、専門家と支援者が共同で行っていくことが重要だと思う。
- ・室内プールを利用する際の支援を求めるニーズがある。
- ・生きがいとして活動ができるとよい。
- ・取り組める場所、指導者の人材が必要。
- ・長期間にわたって継続できるよう、補助金等の制度があるとよいと思う。
- ・コロナ禍や高齢化に伴い、参加自体が難しくなっているので、気軽に楽しめるものを取り入れていただきたい。
- ・コロナ禍の中でなかなか難しいところもあるが、何か作ったものを展示する場を作ったり、スポーツ大会を楽しむイベントが開催できるとよい。
- ・市広報などを通してイベントのお知らせ等ができると、参加される方やその家族に徐々に広がっていくのではないかな。
- ・重度障がいの方は参加できる事が少なく、困っている。
- ・障がいに応じたスポーツやレクリエーションを楽しめるよう、指導員の養成や組織づくりなど障がい者スポーツや障がい者向けレクリエーションの普及、促進を図るための基盤整備を行う。
- ・地域で気軽にスポーツやレクリエーションを楽しむことができるように参加する機会の拡充を図る。
- ・精神障がい者は、社会参加に定期的に参加することが困難であるため、参加できる活動が増えたらよいと思う。
- ・文化芸術活動については、作品展の開催などにより芸術に触れ合う機会はあるように思うが、スポーツについては、なかなか機会がない。
- ・市役所で開催している作品展に、事業所が積極的に参加すること。

## (7) 地域で暮らすうえで困っていることや、環境整備が必要だと感じることについて

### 1. 障がい者関係団体

- ・建物や道路等のバリアフリーの情報支援や、近所の人による声掛けなど、地域で安心して生活ができる見守りシステムの構築。
- ・住環境を整備する相談や情報を提供する窓口があると安心できる。
- ・地域の人たちの理解がなく、困ったことがあっても適切に対応してもらえない。
- ・障がいを理由に地域の行事等に参加できなかったりするので、障がい者本人やその保護者が地域の人たちと交流する機会や施設があるとよいと思う。
- ・側溝や歩道の段差が、ゴミの収集場所への運搬時に危険を感じる。
- ・公施設に「耳マーク」の設置が少なく普及していないように感じる。「耳マーク」を表示した指差しシートなどを公施設にもっと増やしてほしい。
- ・支援が受けられる団体があるのに存在自体を知らなかったり、行政に相談しても「様子を見ましょう」が多く、支援を受けられるまでの道のりが長い。
- ・エレベーター、スロープ、視覚障がい者用信号機や点字ブロックの増設、車いすマーク不所持で優先駐車場を使っている人への対策。
- ・聴覚障がい者などにも平等に情報を得られるようになってほしい。
- ・重度の知的障がい者の受け入れ先が少ない。緊急時の受け入れ先が見つからない。グループホームにも入れず、親なきあとも安心して託せるような受け入れ先があってほしい。
- ・地域の人たちとの交流の場が少ない。
- ・障がいを理解した医療従事者の充実、障がい者医療に対応できる病院を市内又は圏域内に望む。
- ・車いす社会を見据えた環境整備。
- ・重度自閉症者の自宅での日常生活は大変困難であり、また、入所施設等の受け入れ先が中々見つからなくて疲弊する。家族のレスパイトも必要。
- ・夜間のグループホームの支援体制について不安がある。
- ・24 時間体制で診てくれる施設を確保してほしい。
- ・災害時の福祉避難所が整備されているか不安。また、普段からお世話してもらっている人が災害時に来られないと困ってしまう。
- ・相談員のスキルアップや、職務範囲を広げる。
- ・地域で子どもに障がいがあることが言えなかったり、隠して生活したりしているので、まずは、言いやすい環境づくりが必要だと思う。
- ・市民病院の退院時に、関係機関につないでほしい。
- ・障がい児への対応ができるノウハウを持った保健師に担当してほしい。
- ・障がいのある方の相談窓口の充実、整備が必要。
- ・精神障がい者が、就労するまでの過程において、病院のデイケアと B 型事業所の中間に位置する施設などがあるといいように感じる。

## 2. 障がい者関係事業所

- ・ご近所さんによるちょっとした事の声かけ・見守りがあるとよいと思う。
- ・有償移送サービスの充実。
- ・点字ブロックの整備、音声信号機の拡充。
- ・外出先でのトイレの整備や、バリアフリーの道路等、車いすでの外出がしやすい町になってほしい。
- ・災害時、緊急時の避難先や安全確保。
- ・幼少期に地域の学校に通学していないため、近所に知り合いが少なく、本人を知ってもらう機会が少ない。
- ・地域の民生・児童委員の活動の場を障がい者に広げてほしい。
- ・日中一時支援などが、使いたい時に使えないサービスについて困っている。
- ・バリアフリーの一覧があると助かる。
- ・親なきあとの地域での生活が心配。
- ・手続きの簡素化、もしくはアプリ等があるとよいのでは。
- ・困った時にすぐに相談・対応できるよう、特に相談支援員の数を増やして、もっと気軽にそして丁寧に説明を聞きたい。
- ・地域に更にたくさんの相談窓口が必要。
- ・利用者が活動できる場が増えて、意見がもっと取り入れられていくこと。
- ・障がいがあってもなくても地域の中で共に生きていく社会をつくっていくこと。
- ・駅の中のトイレが少なく出入口がせまい、分かりづらい。
- ・市町村間の巡回バスがあるとよい。
- ・障がいに対しての認知度が低く、ヘルプマークの普及を望む。
- ・車いすの方の就労が難しい。一般就労もそうだが、福祉就労までもがそうである。
- ・福祉就労事業所には、段差の解消、トイレの整備など、車いすの方も利用できるようにしてほしい。
- ・各小中学校の学童に障がいのある子でも利用できる学童を整備してほしい。
- ・学校において、身体障がいがあると、階段は危険を伴うこともあったり、下駄箱の位置やトイレなど整った環境は少ないように感じる。



## （８）障がい者に関する理解や市民の意識について、日頃感じること

### 1. 障がい者関係団体

- ・福祉ふれあいボランティアフェスティバルを開催し、市民参加を呼びかけているが、その時だけで終わってしまっている。日頃から、一般市民が参加・実施している事業にも参加していくことで、意識も変わっていくのではと思う。
- ・障がい者に対する理解や意識は少しずつ良くなっているが、障がい者がいて普通だという社会に意識になるのは時間がかかる。
- ・差別意識はないにしても、偏見をもってみられることが多く、障がい者にはできるだけ関わりたくないという意識は感じられる。
- ・身体障がい者は割と理解されやすいが、知的・精神障がい者は理解されていないように思われる。
- ・視覚障がい者に対する理解が、一般の人にまだまだ広がっていない。点字ブロックの上に立って話し続けている人に、障がい者が「すみません」と言わないといけない。
- ・身近に障がい者がいる人、いない人で意識の差がある。
- ・「障がい者＝可哀想な人」ではないと認知してもらうために、広報紙やインターネットなどで各団体の活動などを市が積極的に周知したり、容易にアクセスできる環境作りが必要だと思う。
- ・固定観念や不必要な付度を無くすためにも、インクルーシブ教育の推進、イベントボランティア活動に取り組んでいくべき。
- ・家族や地域、学校に障がい者がいると、身近に感じられ理解・行動が自然となっていくものであると思う。
- ・一般の健常者と同等の待遇をする。
- ・健常者と障がい者の交流の場を拡大する。
- ・医療機関において、合理的配慮が必要。
- ・特別支援学校同士の交流のほうが、充実した交流ができると感じる。
- ・障がい者への差別や偏見はまだある。理解、支援までは難しいと思うが、健常者・障がい者関係なく受け入れる温かい心をもってもらいたい。
- ・障がい者から、配慮してほしいことを伝えていかないと分からない。
- ・多数派が少数派のことをどれだけ考えられるかが大切。
- ・若い人は比較的理解があるが、40代以上の方は理解がないことが多い。
- ・車いすで外出するとじっと見られることがある。重度障がい者を知らない、見たことがないことが理解につながらないのではないかなと思う。
- ・雇用面において、障がいの特性まで理解してもらえる企業が少なく感じる。企業努力では限界があるので、フォローする機関の充実が必要。

## 2. 障がい者関係事業所

- ・温かく理解していく人が増えてこればよいと思う。
- ・進んで支援を申し出たり、ボランティアに参加する人が少ない。
- ・障害者理解は進んでいるように思うが、それがボランティア意識につながっているとは感じられない。
- ・ヘルプマークを所持することによって、静かに見守ってもらえ、困った事があつて際に配慮を受けやすくなり、奇異な目を感じるものが少なくなった。
- ・『合理的配慮』という言葉がまだ広く知られていない。
- ・合理的配慮の見極めが難しい。
- ・障がい者との触れ合いこそ、もっと障がい者が身近に感じてもらえる生活環境だと思う。
- ・小学校や幼稚園などの教育機関で積極的に障がい者との交流機会を増やしてもらえると、障がいについて自然と学んでいけると思う。
- ・合理的配慮を行うためには、障がいがあるから障がいのない人と同じようにできない、しょうがないではなく、障がいがあってもどうすれば障がいのない人と同じようにできるのかという視点で、一人ひとりが考えて今自分にできる配慮を行っていくことが大切。
- ・知的・精神障がいの方で、一見、障がい者と理解できない場合はよくある。ヘルプマークの提示は、一般市民が理解していくうえでの、1つのツールになっているのではないと思う。
- ・ヘルプカード等の普及によって障がい者からの支援の要求が分かりやすく、市民の方や学生についても合理的配慮がしやすくなったと思う。
- ・一般的に、障がい者に対するイメージは決して良いとは言えない。
- ・住宅街に障がい者施設が建設されると知ると、地域住民の方々は反対される。
- ・差別といったことに遭遇したことはないが、人間関係が希薄になり、関心がなくなってしまうように感じる。
- ・買い物学習や社会体験などを通して地域の人が協力してくださることは多い。
- ・合理的配慮やヘルプマークの認知度も上がってきていると思うので、知っているだけで終わらせず、さらに援助や配慮について一人ひとりが考える機会を持つことが大切。

## (9) その他、大垣市の障がい福祉施策やまちづくりについて、気付いた点や意見等

### 1. 障がい者関係団体

- ・福祉施策や、まちづくりについては、今後も事前に、障がい当事者や障がい者団体等の意見や要望を聞いて、福祉施策等を施行してほしい。
- ・「私たちのことを、私たち抜きで決めないでください。」
- ・障がい者が地域で快適な生活ができるようにするためには、障がい者がいつでも利用できる福祉施設が多くあることや、困った時にすぐに対応してもらえる人がいることが重要である。
- ・災害時、避難先での地域の方々の理解が得られるような環境整備をしてほしい。
- ・相談員、民生委員などが障がい者の家を定期的に巡回することが必要。
- ・事業や物事を決めるとき、特に施設の整備時には、当事者の意見を聞いてほしい。
- ・子育て日本一をうたっているのであれば、健常児の子育てだけではなく、子どもに関する福祉を含めた環境づくりを積極的に進めてほしい。
- ・PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）資格保有の専門職、看護師、保育士を各施設が確保するには高い水準の給与が不可欠であるため、賃上げを行ってほしい。
- ・大垣市は日本一の子育てができる町を掲げているが、障がいがある子もいるので、幼い頃から障がいがあることを考慮し多方面の施策が行われるとよい。
- ・高齢化社会、独居生活者が増加傾向にあり、老後生活に不安を感じる。
- ・市の活性化のためには、高齢者・障がい者にやさしい町づくり、インフラ整備拡大を期待したい。
- ・親なきあとの子どもの生活が不安。
- ・放課後支援施設は増えてきたが、休日・祝日に使える施設がまだまだ少ない。
- ・障害支援区分の再認定を無くしてほしい。
- ・ワクチン接種料金を高齢者と同じ扱いで重症心身障がい者にも補助してほしい。
- ・知的障がいの重い人にも医師意見書で紙パンツやストマ等の支給をしてほしい。
- ・障がいのある子どもが行ける余暇活動の場所を増やしてほしい。
- ・障がい当事者として発信していく役割があることをプランにも入れてほしい。
- ・いつでも気軽に相談できる場所を、空き家を利用して作るとよい。

### 2. 障がい者関係事業所

- ・コロナ禍ではあるが、行政主催の研修等があれば参加したい。
- ・区分判定の期間は長いが、受給量は1年毎というのは短いと思う。
- ・デイサービス、短期入所などの施設が増えて暮らしやすい町になっている。
- ・障がい児をもつ親が働きやすい環境が整うとよいと思う。
- ・もっと一般の方が障がい者施設をみられる機会があればよいと思う。
- ・医療的ケア児をもつ保護者の話を聞いていると、一つの要望を聞き入れてもらえるまでに時間がかかるので、もう少し柔軟な対応をお願いしたい。